



3月末時点での国の借金は過去最大の1270兆円

財務省が公表しました、令和5年3月末時点での国債や借入金などを合計した「国の借金」は、過去最大であった令和4年12月末から13兆4999億円増えて1270兆4990億円となりました。令和5年度の税込総額は約69兆円と4年連続で過去最高を更新の見通しですが、高齢化による社会費の膨張に加え、防衛費の増加などの歳出の拡大に追い付かず、約35.6兆円の新規国債発行で歳入不足を賄う予定で、国の財政は厳しい状況が続きます。

令和5年3月末の国の借金は、昨年12月末に比べ、国債は約20.9兆円増の約1136.4兆円で全体の約89%を占め、うち普通国債(建設国債、赤字国債等)は約21.3兆円増の約1027.1兆円と過去最大となりました。その内訳は、長期国債(10年以上)が約7.9兆円増の約778.3兆円、中期国債(2年から5年)が約0.9兆円増の約183.5兆円、短期国債(1年以下)も約12.5兆円増の約65.3兆円と軒並み増加して全体を押し上げました。

この「国の借金」約1270.5兆円は、令和5年度一般会計予算の歳出総額114兆3812億円の約11倍、同年度税収見込み額69兆4400億円の約18.3倍にあたります。年収500万円の会社員が9150万円の借金を抱えている勘定です。また、わが国の今年4月1日時点での推計人口1億2447万人(総務省統計局の概算値)で割りますと、国民1人当たりの借金は、昨年12月末時点の約1006万円から約1021万円に増加しています。

わが国の公債残高(普通国債残高)は年々増加の一途を辿っていますが、令和5年3月末現在実績の公債残高約1027.1兆円が、令和4年度末見込(令和5年度当初予算ベース)では約1042.6兆円とされています。これは、令和5年度一般会計予算税収見込み額約69.4兆円の約15年分に相当し、国民1人当たり約838万円にのぼり、将来世代に大きな負担を残します。ちなみに、国及び地方の長期債務残高は令和5年度当初予算ベースで約1257兆円に膨らむ見込みです。

*詳細はこちらからご確認いただけます。

「国債及び借入金並びに政府保証債務現在高(令和5年3月末現在)(財務省)」(令和5年5月10日)

<https://www.mof.go.jp/jgbs/reference/gbb/202303.html>

